様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ０２３４５

研究課題名（和文）破壊的な仕組みを備えた現代社会で「場所」を生きる意味の実践へと結ぶ美術表現の研究

研究課題名（英文）The study of how artistic expression connects to the pragmatic meaning of living in a "place" in a modern society equipped with a destructive system

研究代表者
坂巻　正美（SAKAMAKI, Masami）

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：６０２９２０６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：これは、地域特有の民俗文化として継承されてきた生活術を再生し、場所を生きる意味の実践へと結ぶ美術表現の研究である。過疎地域では、労働人口が都市へと吸収され、限界集落化が進む。そのような場所を生きる老人たちは、固有の民俗文化を継承し、場所の歴史性を語り、見せてくれる。地域固有の生活文化が失われていく現実に対抗し得る新たな生き方のイメージを提案・実践するため、サイトスペシフィック・アートの手法 に「社会彫刻」の概念を重ね、その場所を生きる人々と協同で場所の歴史性を活かす芸術表現を実践した。芸術の社会性を備えた作品として奥能登国際芸術祭招聘等にて評価を得、広くその研究成果を伝えることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
第1回・2回の奥能登国際芸術祭への招聘にて、合計約９万人の鑑賞者に公開できた。本展図録の各作品総評欄紙面全体の半分程が当該作品研究の肯定的批評であった。作品は、里山・里海交流の伝統的民俗文化の継承者に教えを請い、共に実践し、その土地固有の歓待の風習と共に語り合い、地域外の鑑賞者へと開いてく芸術実践を行った。奥能登地域では、人と自然の関係性を背景に、地域固有の社交術によって場所を生きる意味を学ぶ機能が継承されている。そこから、伝統的祝祭・儀礼を通じた死と生の循環の思想とも重なりながら、現代の新しい生き方へと繋ぐイメージとして地域の生活者の知識や技術提供を受け、協同での芸術実践の成果へと繋がった。

研究成果の概要（英文）：This study is about reclaiming the art of living passed down as unique local folk culture and how artistic expression connects to the pragmatic meaning of living in a place. In depopulated areas, the cities swallow up the working population, and marginal settlements are increasing. Older people who live in such places pass on the inherent folk culture, recount the area’s history, and present it to us. To offer or implement a new way of living as a countermeasure to the loss of inherent local lifestyle culture, we used a site-specific art approach reinforced with the concept of societal sculpturing. Through collaboration with the people living in the “place”, we accomplished an artistic expression that made the most of its historicity.
As a work incorporating the social nature of art, it received appraisal through an invitation to the Oku-Noto Triennale, which allowed broad communication of the research results.

研究分野：彫刻

キーワード：現代美術　限界芸術　社会彫刻　サイトスペシフィック・アート　場所を生きる　海と山の交易　物々交換交流　　芸術実践

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

これまでの研究では、大都市から離れた辺境地で生活する先住民の狩猟や漁撈の伝統的生活文化継承の現場を調査し、サイトスペシフィック・アート（Site-specific Art ）の表現手法で作品表現を行ってきた。*注）［This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number 20520103.Grant-in-Aid for Scientific Research（C)］［This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number JP23320039. Grant-in-Aid for Scientific Research（B)］伝統的社会で継承されてきた互酬性は、人と人、人と自然の関係性を太い絆で結び、地域社会で生きる意味を深めていく機能を備えていた。経済の問題は、過疎化を招き、地域の意味を失わせている要因のひとつだ。伝統的社会で機能してきた互酬性に関わった儀礼を作品のモチーフに、死と生の循環の思想と重なる現代の新しい生き方へと繋ぐイメージとして制作発表し、学際的議論を交え進める。本研究期間では、北海道内外の過疎化地域で、今起こっている過疎化の要因を伝統的な生活・風習が消えていくことと関連比較しながら調査に出かけ、地域独自の自然環境と繋がった伝統的生業の継承についても調査する。研究拠点である北海道と関連の道外地域では、北方の自然環境を背景とした生業と関連し、山野河海と繋がった伝統的な生き方を調査する。当該研究の協力者でもある人類学・竹川大介（北九州市立大学）と現代美術・中瀬康志（金沢美術工芸大学元教授）とは、日本海の空間といった場所性から、奥能登・上黒丸集落にてアートプロジェクトを 2014 年度から継続して実施中だ。2017 年は、第一回・奥能登国際芸術祭・招待作家としても継続中の作品が関連して紹介された。地域の人々とも協力体制を築いており、当該研究の有力な候補地の一つとして研究を継続してきた。作品構想へと繋がるように、調査地域の協力者や関連する分野の人脈からも関連の専門家を交えた勉強会を行った。勉強会では、場所についての知識やそこで暮らす人々が抱えている問題について地域の生活者と討議し、一緒に考え、地域固有の歴史性等、その特質を生かした場所で、今どのような生き方が可能か、そこで生きることの意味を探った。

２．研究の目的

この研究は、場所の特質を活かすサイトスペシフィック・アート（Site-specific Art ）の手法を用い、地域特有の生き方として使われてきた古い叡智や生活術等を再生するなど、場所を生きる意味の実践へと結ぶ美術表現の研究である。当該研究拠点の北海道は、先住民族の歴史から内国植民地とも呼ばれた時代を経、厳寒の気象環境の中、交通インフラや経済活動の問題等から大都市札幌の求心力に道内各地の人口は吸収され、さらに東京へと流れるといった、どこの地方でも見られる人口減少がある。北海道に限らず、そのような大都市の草刈場の構造が続いている地方の辺境に暮らす人々は、今も伝統的生活術を継承して自然環境を利用する知恵と技術をもって場所を生きている。そのような場所で、美術作品を制作発表することの意味を問い、地域の伝統的生活文化が衰退し都市型の生活を志向する現実に対抗し得る新たな生き方のイメージを美術作品の発表を通じて提案してきた。当該研究でも、その場所固有の伝統的生活術を実地調査しながら新たな生き方のイメージを提案するため、サイトスペシフィック・アート（Site-specific Art ）に「社会彫刻」の概念を重ね、作品に関わる人々との共同作業を実践し、場所の特質を活かす芸術表現の深化の一助とし、芸術の社会性について問い直す。

３．研究の方法

作品発表場所を含めた研究対象地域での実地調査から構想してきた作品制作をおこなう。例えば、奥能登地域では、海辺の集落と里山の集落が、歩いて往復できる距離にあり、昔から海産物と米が交換されてきた。里海・里山間の物々交換の経済は、今もその名残が継承されてはいるが、嘗ては、日常的に、この地域の生活文化として場所を生きる実感を伴った風物として日常的生活の仕組みの中にあった。魚醤や天然塩、保存加工した海産物をリヤカーで米と交換してきたのだ。このような場所の記憶を収集する調査と共に、勉強会を公開で開催してきた。住民の参加実践を伴う作品制作や発表・シンポジウムへの議論の内容を深めていくための事前対話や協同での作品制作実践への蓄積も充実させ、地域との協力関係を保つことに勤めながら研究を進めた。

４．研究成果

当該研究では、場所の特質を活かすサイトスペシフィック・アート（Site-specific Art ）の手法を用い、地域特有の生き方として継承されてきた生活術等を再生するなど、場所を生きる意味の実践へと結ぶ美術表現の研究を調査地域でその成果として発表を行うことができた。

地方や過疎地域では、都市生活に比べて生活・社会インフラの不便や不利が生じ、労働人口は都市へと吸収され、老人世帯の限界集落化が進む。しかし、その老人たちの知恵と技術が、その土地固有の風習や生活術を継承し、民俗・文化・風景などの場所性を維持している。そのような場所で美術作品を制作発表し、その芸術実践の意味を問いながら、地域固有の生

活文化が失われていく現実に対抗し得る新たな生き方のイメージを提案してきた。新たな生き方の実践としてサイトスペシフィック・アート（Site-specific Art ）に「社会彫刻」の概念を重ね、その場所を生きる人々との協同作業から場所の特質を活かす芸術表現の実践によって芸術の社会性を問い直す表現として評価を得ることができた。

具体的には、2017 年・2021 年あわせて多数の鑑賞者が訪れた第 1 回・2 回の奥能登国際芸術祭に招待され、合計約９万人の鑑賞者に当該研究の成果を公開する機会を得ることができた。本展図録で取り上げられた作品批評の内、総評欄紙面全体の半分程が批評家・福住廉氏による当該作品研究の肯定的批評として紹介された。

また、実際の作品研究では、山野河海と共に生きる伝統的民俗文化の継承者に教えを請いながら、現場を調査し、共に実践し、土地固有の歓待の風習と共に語り開く芸術実践を行った。特に奥能登地域に時間を費やしたが、地域で継承されてきた伝統的互酬性の視点から捉えるならば、この場所では、人と人、人と自然の関係性、歓待や地域固有の社交術によって場所を生きる意味を学ぶ機能が継承され、今もその精神が残っている。地域固有の伝統的食文化や祝祭・儀礼を通じた死と生の循環の思想と重なり、現代の新しい生き方へと繋ぐイメージとして奥能登地域を中心に作品を制作発表し、地域の生活者の知識や技術提供を受けながら協同での芸術実践を進めていく研究成果へと繋がった。

https://kuma-s.org/index.html

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　4件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 坂巻正美
２．発表標題 『上黒丸　座円　循環　曼荼羅　参一 行雲流水　上黒丸〇』
３．学会等名 奥能登国際芸術祭2020＋（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 坂巻正美
２．発表標題 【けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想シリーズ「羆（シシ）になること」】（横2400㎝×高さ200㎝×奥行き60㎝)のインスタレーション
３．学会等名 札幌大通地下ギャラリー500m美術館「反骨の創造性」展（主催：札幌市、企画・運営：CAI現代美術研究所/一般社団法人PROJECTA、会期：令和２年5月～11月→令和３年２月末まで会期延長）招待出品（招待講演）
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 坂巻　正美
２．発表標題 奥能登を語る
３．学会等名 北海道芸術学会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 坂巻　正美
２．発表標題 上黒丸 北山 鯨組 2017
３．学会等名 奥能登国際芸術祭2017（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計3件

1．著者名 北川フラム,椹木野衣,吉見俊哉 ,中瀬康志,坂巻正美,竹川大介,宇土ゆかり,土井宏二,他	4．発行年 2022年
2．出版社 現代企画室	5．総ページ数 201
3．書名 奥能登国際芸術祭2020＋	

1．著者名 北川フラム,奥能登国際芸術祭実行委員会	4．発行年 2021年
2．出版社 奥能登国際芸術祭実行委員会	5．総ページ数 164
3．書名 奥能登国際芸術祭2020＋公式ガイドブック	

1．著者名 奥能登国際芸術祭実行委員会 ， 北川フラム ,福住廉,中瀬康志,坂巻正美,竹川大介,他	4．発行年 2018年
2．出版社 現代企画室	5．総ページ数 124
3．書名 奥能登国際芸術祭2017	

〔産業財産権〕

〔その他〕

MASAMI SAKAMAKI 彫刻家・坂巻正美
http://kuma-s.org
作品No.43 チームKAMIKURO〈日本〉
https://oku-noto.jp/ja/artist43.html
奥能登国際芸術祭2020＋
https://oku-noto.jp/ja/index.html
MASAMI SAKAMAKI
http://kuma-s.org/
SAKAMAKI MASAMI
http://kuma-s.org/
MASAMI SAKAMAKI（彫刻家・坂巻正美）
http://kuma-s.org/
国立大学法人　北海道教育大学　研究者総覧　坂巻正美
https://kensoran.hokkyodai.ac.jp/huehp/KgApp?kyoinId=ymiyggggggs&keyword=
奥能登国際芸術祭
http://oku-noto.jp/artists/masami-sakamaki/
MASAMI SAKAMAKI
http://kuma-s.org/
北海道教育大学　研究者総覧　坂巻正美
http://kensoran.hokkyodai.ac.jp/huehp/KgApp?kyoinId=ymiyggggggs&keyword=

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関